



令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

令和5年3月 発行

編集・発行 一般社団法人 WATALIS

〒989-2351 宮城県亘理郡亘理町字中町22

TEL: 0223-35-7341

E-mail: info@watalis.jp

HP: <http://watalis.jp/>



遊休農地の活用による ダイバーシティな地域共生コミュニティ造成事業

遊休農地の活用による ダイバーシティな地域共生コミュニティ造成事業

独立行政法人福祉医療機構 令和4年度社会福祉振興助成事業

目次

はじめに	3
1. 2022年度の主な活動と事業	4
2. 組織・運営	
(1) 助成事業に係る組織・事務分掌	6
(2) 事業計画	7
(3) 事業概要図	11
3. 実行委員会	12
4. 農作業に関するワークショップ	
第1回	14
第2回	16
第3回・第4回	18
第5回・第6回	20
5. 遊休農地を活用した農作業体験イベント	
第1回・第2回	22
第3回・第4回	24
第5回・第6回	26
第7回・第8回	28
第9回・第10回	30
第11回・第12回	32
第13回・第14回	34
第15回・第16回	36
6. 商品開発関連イベント	
商品開発ワークショップ	38
意見交換会	40
7. 交流前後の情報発信とコミュニティ構築	42
8. アンケート結果・考察	44
9. 広報物	50

はじめに

WATALISは、震災後に地域の女性達で立ち上げた団体です。代表理事、理事全て地域住民が主体となって運営し、「東日本大震災の被災地に人と学びの環を創る」ために活動しています。

今年度は令和4年度社会福祉振興助成事業に採択され、さまざまな生きづらさを抱えた人たちが共に地域づくり活動に取り組み、活躍することにより、東日本大震災の被災地に「安心・安全な交流の場」を創り、人と人のつながりを実感できる「ダイバーシティな地域共生コミュニティを造成する」事業に取り組んでまいりました。

「夫婦のみ世帯や独居の高齢者」「障がい者就労施設利用者」「対人コミュニケーションに不安を抱える人」「コロナ禍により働きづらさを抱えた若者」「母国に帰国できず地域にも溶け込む機会がない在日外国人(留学生)」といった多様な人たちが、地域資源である遊休農地を活用した農作業や養蜂等の共同作業を行うことで、相互理解を深めました。皆で撒いた種が芽吹き花を咲かせたことは被災地域の景観の維持にもつながり、取り組みの成果が形になったことを喜び合いました。

宮城県内でもまだ新型コロナウイルス感染症が感染拡大と収束を繰り返しています。コロナ禍の中、参加される皆さんの心が少しでも明るくなり、前向きな気持ちで毎日を過ごしてほしいと願いながら、この交流の場を守ってきました。

“地域コミュニティ”は、共感しあえる仲間と共に過ごす場であり、ひとりひとりに元気や活力を与えてくれます。被災地の暮らしの中で、ともすれば今でも生まれてくる不安や孤独感を癒すためにも、必要な場であることを改めて感じています。

私たちはこれからも多様な地域住民のネットワークを育むお手伝いを続けてまいります。独立行政法人福祉医療機構(WAM)のご支援をいただいたことに、私たちも参加された皆さんも感謝の気持ちでいっぱいです。関係者の方々におかれましては、なお一層のご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。

最後に、この事業を実施するにあたり、多大なるご協力を賜りました方々、および関係機関に衷心より厚く御礼申し上げます。

一般社団法人WATALIS代表理事

引地 恵



月日	時間	内容	講師	場所
4月18日(月)	15:00～17:00	農作業に関するワークショップ 第1回	齋藤 高晴氏 田中 麗氏	
4月18日(月)	18:00～20:00	実行委員会 第1回	—	
4月28日(木)	13:00～15:00	農作業に関するワークショップ 第2回	齋藤 高晴氏 田中 麗氏	
5月5日(木)	10:00～12:00	農作業に関するワークショップ 第3回	齋藤 高晴氏	
5月5日(木)	13:00～15:00	農作業に関するワークショップ 第4回	田中 麗氏	
5月15日(日)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第1回	佐藤 賢一氏	
5月15日(日)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第2回	鎌田 雅行氏	
5月26日(木)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第3回	佐藤 賢一氏	
5月26日(木)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第4回	鎌田 雅行氏	
6月5日(日)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第5回	佐藤 賢一氏	
6月5日(日)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第6回	鎌田 雅行氏	
6月9日(木)	10:00～12:00	農作業に関するワークショップ 第5回	齋藤 高晴氏	
6月9日(木)	13:00～15:00	農作業に関するワークショップ 第6回	田中 麗氏	
6月16日(木)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第7回	佐藤 賢一氏	
6月16日(木)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第8回	鎌田 雅行氏	
7月12日(火)	18:00～20:00	実行委員会 第2回	—	
7月21日(木)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第9回	佐藤 賢一氏	
7月21日(木)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第10回	鎌田 雅行氏	
8月21日(日)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第11回	佐藤 賢一氏	

月日	時間	内容	講師	場所
8月21日(日)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第12回	鎌田 雅行氏	
9月11日(日)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第13回	佐藤 賢一氏	
9月11日(日)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第14回	鎌田 雅行氏	
10月16日(日)	10:00～12:00	農作業体験イベント 第15回	佐藤 賢一氏	
10月16日(日)	13:00～15:00	農作業体験イベント 第16回	鎌田 雅行氏	
10月16日(日)	16:00～18:00	実行委員会 第3回	—	
12月14日(水)	10:00～12:00	商品開発ワークショップ 第1回	齋藤 高晴氏	
12月14日(水)	13:00～15:00	商品開発ワークショップ 第2回	田中 麗氏	
1月27日(金)	10:00～12:00	商品開発意見交換会 第1回	—	
1月27日(金)	13:00～15:00	商品開発意見交換会 第2回	齋藤 高晴氏	
1月27日(金)	16:00～18:00	実行委員会 第4回	—	
2月21日(火)	10:00～12:00	商品開発意見交換会 第3回	—	
2月21日(火)	13:00～15:00	商品開発意見交換会 第4回	齋藤 高晴氏	
3月2日(木)	10:00～12:00	商品開発意見交換会 第5回	—	
3月2日(木)	13:00～15:00	商品開発意見交換会 第6回	齋藤 高晴氏	
3月2日(木)	16:00～18:00	実行委員会 第5回	—	

(1) 助成事業に係る組織・事務分掌

一般社団法人WATALIS

団体内役職	氏名	担当	担当する助成事業内容
代表理事	引地 恵	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の全体のとりまとめ ● 機構との連絡担当 	事業全体、ワークショップの開催に関すること
理事	菊地 喜久江	● 助成事業担当	事業報告書の作成に関すること
理事	高橋 由紀	● 助成事業担当	事業報告書の作成に関すること

実行委員会

氏名	所属等
伊藤 公善	社会福祉法人みんなの輪わ・は・わ美里
齋藤 高晴	株式会社communa
陳 柏翰	島島価値創造事務所
大津 知士	stosdesign株式会社
伊藤 道明	地域住民代表
千葉 義昭	地域住民代表 (土地所有者)

現地協力団体 (実行委員会参画者を除く)

団体名	担当する助成事業内容
公益財団法人 共生地域創造財団	円滑な運営のための支援、農作業への参画 参加者募集告知などの広域的な広報活動 (岩手県・宮城県・福島県など)

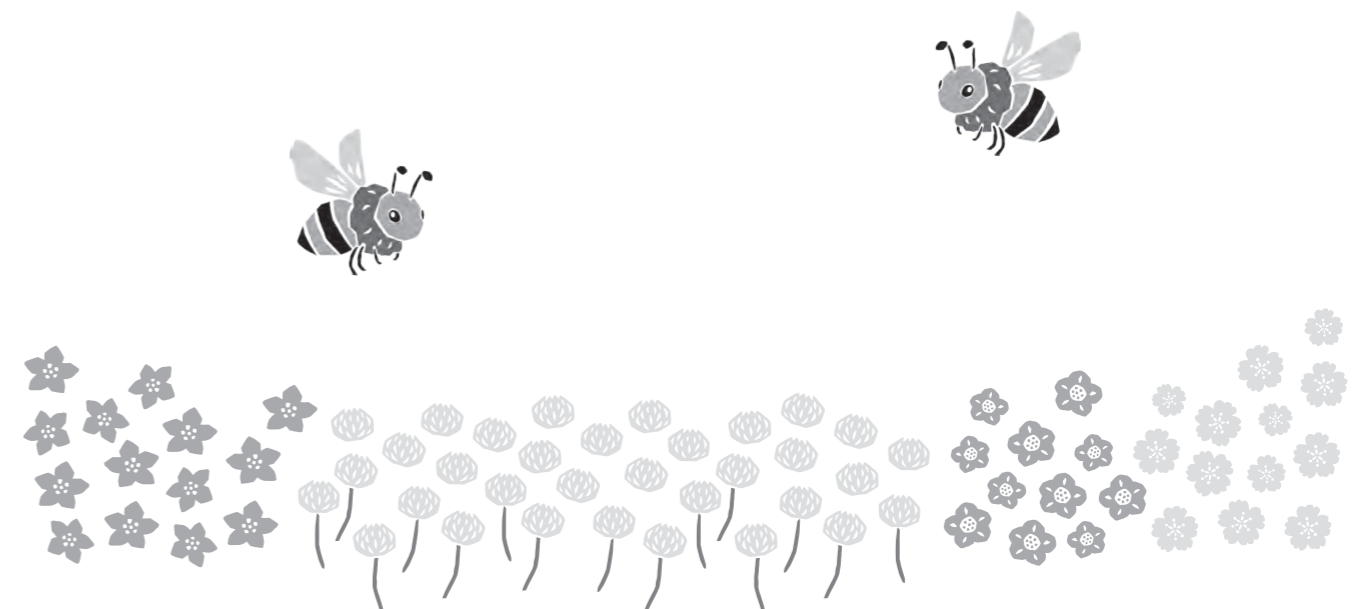
(2) 事業計画

事業名

遊休農地の活用による ダイバーシティな地域共生コミュニティ造成事業

事業概要

「夫婦のみ世帯や独居の高齢者」「障がい者就労施設利用者」「対人コミュニケーションに不安を抱える人」「コロナ禍により働きづらさを抱えた若者」「母国に帰国できず地域にも溶け込む機会がない在日外国人(留学生)」といったさまざまな生きづらさを抱えた人たちが、共に地域づくり活動に取り組み活躍することにより、東日本大震災の被災地に「安心・安全な交流の場」を創り、人と人のつながりを実感できる「ダイバーシティな地域共生コミュニティを造成する」ことを目的に、地域資源である遊休農地を活用した農作業や養蜂等の共同作業を行うことで、参加者の相互理解促進と自己肯定感醸成を図りながら、景観を維持し地域活力を取り戻す事業。



柱立て1. 実行委員会の開催

- 1. 目的**
多様な視点から事業内容について協議・検討し、事業の質を向上させるため。
- 2. 内容**
事業実施に関する課題の把握、整理、検討及び事業の進捗状況の報告を行う。
- 3. 期間・日時**
2022年4月、7月、10月、2023年1月、3月 ※各回2時間程度/計5回
- 4. 対象者の層**
連携団体関係者3名、事業の主な対象者2名
- 5. 延べ人数**
5名×5回＝延べ25名

柱立て2. ワークショップの開催

- 1. 目的**
コロナ禍の中で孤立し、様々な生きづらさを抱える人達の交流の場を求める声に応え、多様な人たちが互いに自己開示を行いながら、参加者同士の仲間意識を高め、新たな地域コミュニティを創るため。
- 2. 内容**
地域の自然環境保全に繋がる農作業（遊休農地を活用した農業や養蜂、蜜源植物の植栽など）や活動の成果物である農作物や蜂蜜等を活用した商品（協賛や寄付の返礼品として活用予定）開発をテーマにしたワークショップを行う。
- 3. 期間・日時**
農作業に関するワークショップ：2022年4月、7月、10月（6回）
商品開発ワークショップ：2023年1月（2回）
- 4. 対象者の層**
連携団体関係者3名、事業の主な対象者4名、一般参加者3名
- 5. 延べ人数**
10名×8回＝延べ80名

柱立て3. 遊休農地を活用した農作業体験イベントの開催

- 1. 目的**
多様な属性（性別・年齢・国籍等）の参加者が共に活動し、適度に体を動かしながら交流を図ることで、心身の健康を維持するため。
参加者自らが被災地の荒廃した農地の再生という地域課題の解決に貢献できる機会を提供し、精神的充足感の獲得を支援する。
- 2. 内容**
大豆などの頑強作物を中心に栽培することを検討。土づくり、種まき、草取り、収穫などの一連の作業を皆で共に行い、仲間意識を育みながら収穫の喜びを分かち合う。
レンゲ等の蜜源植物となる花も栽培し、被災地の遊休農地の殺伐とした風景の中に心癒す空間を創る。蜂の飼育も併行して行い、採れた蜂蜜は商品（協賛や寄付の返礼品として活用予定）づくりの素材として活用。互いに交流を深め、新たな人的ネットワークを構築する。
- 3. 期間・日時**
2022年5月～12月（毎月2回／計16回）
- 4. 対象者の層**
事業の主な対象者15名、一般参加者5名、農作業技術指導者1名、農業従事経験者1名
- 5. 延べ人数**
22名×16回＝延べ352名

柱立て4. 農作業体験の成果物の商品化と農作物の付加価値化

- 1. 目的**
孤立し生きづらさを抱える人達が、自らが商品づくりに関わることで生きがいと達成感を感じる機会を提供するとともに、活動を継続するための資金源を創出するため。
- 2. 内容**
冬場の農閑期を利用して、農業体験の成果物を活用した商品づくりを行う。意見交換会を開催し、高齢者をはじめ参加者の意見を取り入れながら農産物をどのような形の商品にするか等も検討し、必要に応じて加工を行う。また、自然資材を用いた亘理らしい商品について協議し、製作する商品のコンセプトを明確にする。商品は寄付や協賛金の返礼品として活用予定。
- 3. 期間・日時**
2022年5月～12月（毎月2回／計16回）
- 4. 対象者の層**
事業の主な対象者15名、一般参加者5名、農作業技術指導者1名、農業従事経験者1名
- 5. 延べ人数**
22名×16回＝延べ352名

柱立て5. 交流前後の情報発信とコミュニティの構築

1. 目的

事業趣旨の周知や活動に関する情報の拡散を行い、広範囲に参加者を募集するため。
また、コミュニティ内で双方向の情報交換が行える環境を構築するため。

2. 内容

事業趣旨の周知や、活動に関する情報の拡散を行い、コミュニティ内で双方向の情報交換が行える環境を構築することを目的に、SNSを活用し、定期的な発信を行う。また、認証制オンラインプラットフォームの構築も行い、誰でも気軽に参加ができるコミュニティを構築し、将来的にはイベントの周知・集客・情報発信だけでなく、利用者の拠り所になることを目指す。

3. 期間・日時

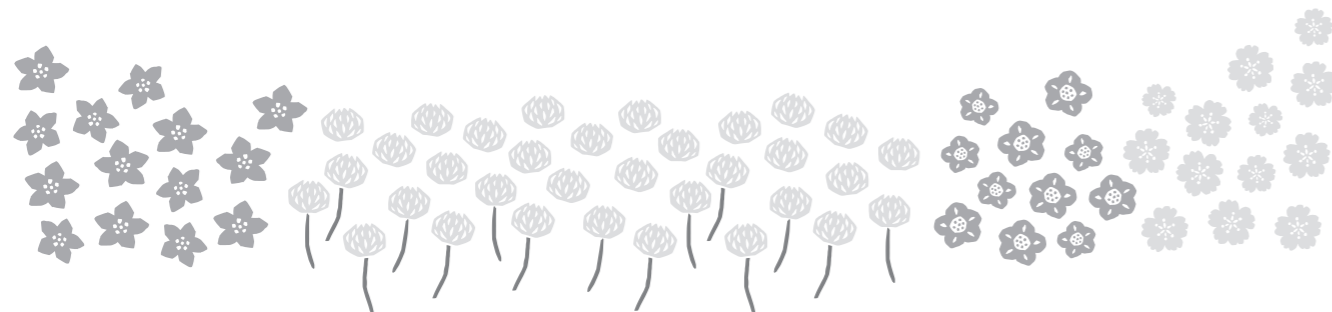
周知・集客等のための情報発信(20回)
チラシ(A4 両面、カラー)(300部)
チラシ郵送/(公共施設、商業施設、広報協力者等 60ヶ所)
オンラインプラットフォームの構築 1件

4. 対象者の層

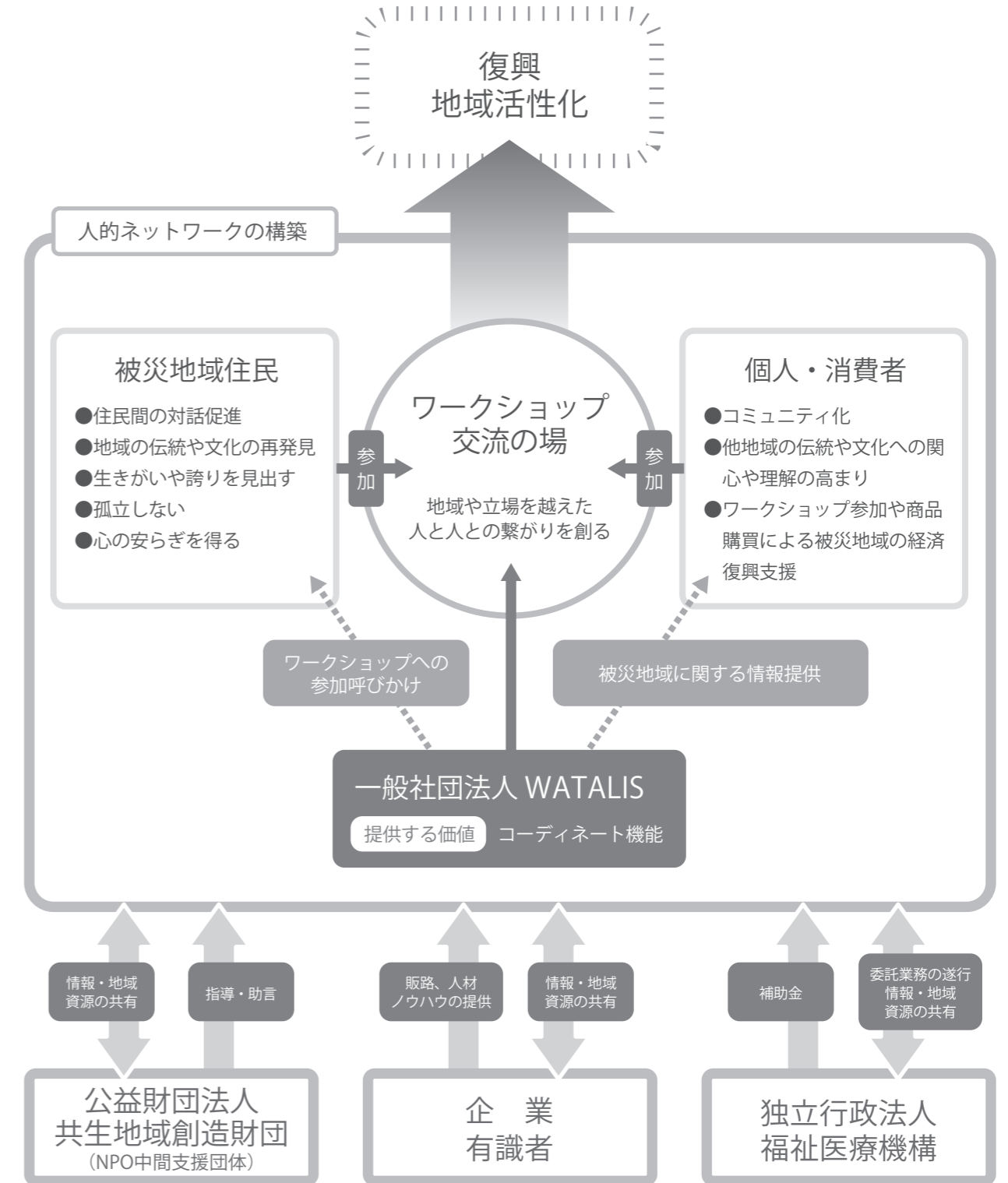
就労支援移行施設や外国人コミュニティグループ、高齢者

5. 延べ人数

延べ2,000名



(3) 事業概要図



3 実行委員会

実行委員会 (全5回開催)

日時 【第1回】 令和4年04月18日(月曜日) 18:00 ~ 20:00
【第2回】 令和4年07月12日(火曜日) 18:00 ~ 20:00
【第3回】 令和4年10月16日(日曜日) 16:00 ~ 18:00
【第4回】 令和5年01月27日(金曜日) 16:00 ~ 18:00
【第5回】 令和5年03月02日(木曜日) 16:00 ~ 18:00

場所 一般社団法人WATALIS内(巨理町字中町22番地)

講師 なし

参加人数 【第1回】 9名
【第2回】 6名
【第3回】 6名
【第4回】 9名
【第5回】 7名

内容

各回ごとに、これまでの活動の振り返りや、参加人数の報告、進捗状況等について話し合いを行った。連携団体や当法人からは、必要に応じて主担当者以外も出席して情報共有に努めた。コロナ禍のため、急遽当日欠席となる委員がいる場合もあった。欠席した委員には会議資料を持参して対面により内容を報告し、意見が出た場合には他の委員にメールや電話で共有したことで、意思疎通を円滑に行うことができた。また、次年度も活動を続けるためにも、賛助会員の募集については、引き続き実行委員が積極的に働きかけを行っていくことになった。

実行委員会の様子



4 農作業に関するワークショップ

農作業に関するワークショップ (1)

日時 【第1回】 令和4年04月18日(月曜日) 15:00 ~ 17:00

場所 遊休農地(亘理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第1回】 齋藤 高晴 (株式会社communa)
田中 麗 (株式会社communa)

参加人数 【第1回】 9名

内容

参加者全員によるチェックインからスタート。初参加の方もいることから、簡単な自己紹介や趣味、最近のトピックス等を一言ずつ発表し、アイスブレイクを行った。

養蜂講師による蜜蜂の生育状況の確認と養蜂についての説明を実施。

7つの養蜂箱それぞれに対し、蜜蜂および蜜のつき具合やサナギの生育状況、女王蜂の所在確認、ダニ観察等の観察を行った。また、養蜂初心者も多数参加していたため、蜜蜂の扱い方や注意事項等の説明も受けた上で、ワークショップを実施した。

作業をしながらお互いに声をかけあい、交流を深める様子が見られた。

初回のため、服装(長そで長ズボンでなるべく袖や裾が閉まっているもの、白っぽい格好)や持ち物(長靴、布ではなくビニールや革などの手袋、360度つばのある帽子、持っていれば虫よけネットがついているタイプの帽子、水分補給のための飲み物)を確認した後に活動を開始した。

ワークショップの様子



参加者の声

第1回

- 最初は怖かったが、徐々に慣れて巣箱の近くで観察できるようになった。
- 専門用語も多く、はじめは何をしているかわからなかったが、質問に対して丁寧に回答してもらえたため、後半は作業内容が理解できた。
- 蜂を近くで見たら、案外かわいかった。

農作業に関するワークショップ (2)

日時 【第2回】 令和4年04月28日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(亘理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第2回】 齋藤 高晴 (株式会社communa)
田中 麗 (株式会社communa)

参加人数 【第2回】 14名

内容

参加者全員によるチェックインからスタート。初参加の方もいることから、簡単な自己紹介や趣味、最近のトピックス等を一言ずつ発表し、アイスブレイクを行った。

その後、2班に分かれて養蜂箱内の蜜蜂の生育具合を観察した。雄蜂房にダニを誘引して駆除する方法でダニ対策を実施。雄蜂房のサナギの成長度合いを確認しながら、蓋と側壁を剥ぎ取って羽化する前のサナギを取り出し、ダニの付着状況を確認する作業を行った。

ほとんどの参加者が初めて体験する内容であったため、初めは戸惑う様子も見られたが、次第に協力しながら作業を進められるようになった。

白いサナギに付着した小さな赤いダニを皆で探した。慣れてくるまでは、どれがダニなのかを判別するのが難しく、講師に問いかけながら参加者同士で声をかけあって活動した。

ワークショップの様子



参加者の声

第2回

- 前回よりも蜜蜂の数かなり多くなっており、育成が順調に進んでいることを知って安心した。
- 羽化する前に駆除するという少し残酷に感じる内容を今回のワークショップで体験し、蜂蜜を大切に味わって食したいと思った。
- ハチミツのためとはいえ、ダニのついた雄蜂を処理するのは心が痛んだ。

農作業に関するワークショップ (3)・(4)

日時 【第3回】 令和4年05月05日(木曜日) 10:00 ~ 12:00
【第4回】 令和4年05月05日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第3回】 齋藤 高晴(株式会社communa)
【第4回】 田中 麗(株式会社communa)

参加人数 【第3回】 12名
【第4回】 11名

内容

【第3回】

5歳のお子様連れのご家族が参加された。

手前の草に溜まった小さな分蜂群を発見。管理上、女王蜂の羽が切られているため飛び立つことが出来ず、分蜂に失敗していた。女王蜂を捕獲して判断を保留し、ほか養蜂箱内の蜜蜂の生育具合の観察を行った。

【第4回】

日照りが強く、暑い中での作業となった。養蜂箱内の蜜蜂の生育具合を観察した。

一群にダニを発見し、ダニ駆除のための薬剤を投入した。第3回で捕獲したAの女王蜂を元の養蜂箱へ戻し、箱を増やし分蜂を進めるかは次回判断することにした。

専門性が高いワークショップとなったが、子供から大人まで各々ができる作業を行いながら、会話が弾む様子が見られた。

ワークショップの様子

■ 第3回



■ 第4回



参加者の声

第3回

- だんだんと巣枠が重くなってきたことで、蜂蜜が溜まりはじめたことを実感できた。
- 虫が苦手で最初は怖かったけど、楽しかった。
- 参加するたびに新しいことを知ることができる。

第4回

- 午後は蜜蜂の活動が活発になるためか、いつも以上に羽音が大きく感じた。
- 様々な花が咲き始める季節なので、頑張って蜂蜜をいっぱい作ってほしい。

農作業に関するワークショップ (5)・(6)

日時 【第5回】 令和4年06月09日(木曜日) 10:00 ~ 12:00
【第6回】 令和4年06月09日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 【第5回】 一般社団法人WATALIS内(巨理町字中町22番地)
【第6回】 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第5回】 齋藤 高晴(株式会社communa)
【第6回】 田中 麗(株式会社communa)

参加人数 【第5回】 9名
【第6回】 7名

内容

【第5回】

通り雨のため、室内で養蜂に関する講習会を行った。
東京での屋上を活用した都市型養蜂の事例についての紹介と説明を実施し、都市型養蜂の技術や工夫をビーガーデンにどう活かしていくかをディスカッションした。
参加者への注意と安全への配慮についても検討を行った。

【第6回】

雨が止んだため、第5回で行ったディスカッションを踏まえて、近隣の有休農地の視察と、蜜蜂の育成状況の確認を行った。

参加者全員によるチェックインからスタート。
最近のトピックス等を一言ずつ発表し、アイスブレイクを行った。
継続参加者も増え、互いに声を掛け合い、会話を楽しむ様子が見られた。

ワークショップの様子

■ 第5回



■ 第6回



参加者の声

第5回

- 限られた場所で養蜂をするための工夫がとても勉強になった。
- 用具や資材についてもっと詳しく話を聞いて、ビーガーデンに活かしたい。

第6回

- ほかのワークショップで植えたラベンダーに、ミツバチがとまっていた嬉しかった。
- 用具や資材をストックして置ける倉庫のようなものが近くにあるといいなと感じた。

5 遊休農地を活用した 農作業体験イベント

遊休農地を活用した農作業体験イベント (1)・(2)

日時 【第1回】令和4年05月15日(日曜日) 10:00 ~ 12:00
【第2回】令和4年05月15日(日曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第1回】佐藤 賢一
【第2回】鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第1回】11名
【第2回】12名

内容

【第1回】
雑草が生い茂っていた遊休農地の整備を行い、花壇の区割り計画について話しあった。
※大まかなエリアは、予め農業機械で整備済み。

【第2回】
第1回に引き続き、遊休農地の整備を行い、防草シートを使用して通路を確保した。
また、次回のラベンダーの苗を植える活動に備えて、土壌改良材の散布を行った。

簡単な作業だったため、参加者同士で会話をしながら進めることができた。
何度か顔を合わせたことのある参加者同士も多く、和やかな雰囲気での活動となった。

ワークショップの様子

■ 第1回



■ 第2回



参加者の声

第1回

- 暑すぎずちょうどいい気候で、良い運動になった。また来たい。
- 農地がどんどんキレイになっていき、やっていくうちに楽しくなってきた。

第2回

- クワやクマデなどの農工器具を久しぶりに触って楽しかった。
- シートやロープを貼ったことで、一気に形が整った気がする。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (3)・(4)

日時 【第3回】 令和4年05月26日(木曜日) 10:00 ~ 12:00
【第4回】 令和4年05月26日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第3回】 佐藤 賢一
【第4回】 鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第3回】 11名
【第4回】 10名

内容

【第3回】

前回計画したラベンダーの花壇造成に向けて苗を植え付けるための畝起こしを行った上で、ラベンダーを等間隔に植え付けていくためのマーキングを施し、苗の植え付けを行った。また、植え付けたラベンダーへの水やりも行った。

【第4回】

防草シートを活用した通路の整備と、ひまわりを植える場所の土壌改良のため、肥料の散布を行った。養蜂場で採取した蜂蜜の試食会も行い、採蜜日により味が変わることを体感した。周辺に咲いている椿、梅、桜、藤などの花の蜜であることが話題となり、地域の自然環境への関心が高まった。

ともに体を動かしながら会話をする様子から、仲間意識の高まりを感じられた。

ワークショップの様子

■ 第3回



■ 第4回



参加者の声

第3回

- みんなで力を合わせ、予定していた倍くらいの面積にラベンダーを植えることができた。
- 体を動かし、汗をかくことで達成感を感じることができた。

第4回

- 原っぱだったビーガーデンがどんどんキレイになっていくことが楽しい。
- 加熱処理する前の蜂蜜を初めて食べたが、市販のものとは遜色なく、美味しかった。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (5)・(6)

日時 【第5回】令和4年06月05日(日曜日) 10:00 ~ 12:00
【第6回】令和4年06月05日(日曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第5回】佐藤 賢一
【第6回】鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第5回】10名
【第6回】13名

内容

【第5回】

養蜂箱を暑さ・寒さから守るための囲いづくりを行った。それに伴って、資材の運搬や、既存の囲いの撤去、新たな囲いの作成、設置を1箇所に行った。
この他に2箇所設置予定のため、第6回に向けての準備も行った。

【第6回】

第5回に引き続き、養蜂箱を暑さ・寒さから守るための囲いづくりを行った。
2箇所目、3箇所目の囲いを作成、設置した。
設置後は、次回開催時の作業内容の打ち合わせや、雑草の除去、初めて参加する方への養蜂状況の説明を行った。

資材運びや囲いの組み立てなど、力のいる作業でだったが、参加者同士で協力しあいながら進める様子が見られた。活動成果が目に見える形となってきたことを喜び合う声が聞かれた。

ワークショップの様子

■ 第5回



■ 第6回



参加者の声

第5回

- 想像していたよりも立派で、しっかりした囲いできてよかった。
- 講師に教えてもらいながら、本格的なDIYができて楽しかった。

第6回

- 移住者のため、地域の方と触れ合えるコミュニティは嬉しい。
- 作業を通じて初対面の人とも交流できた。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (7)・(8)

日時 【第7回】 令和4年06月16日(木曜日) 10:00 ~ 12:00
【第8回】 令和4年06月16日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第7回】 佐藤 賢一
【第8回】 鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第7回】 24名
【第8回】 24名

内容

【第7回】

障がいを持った方々の就労継続支援を行っている「わ・は・わ美里」の利用者がグループで参加したほか、日本で働いている外国人グループも参加した。

ヒマワリの種を蒔くエリアを耕し、畝を立ててから、均等間隔に並ぶように穴を掘り、そこへ種を植えた。

【第8回】

第7回に引き続き、障がいを持った方々や外国人グループが参加した。

ヒマワリの種を蒔くエリアを耕し、畝を立ててから、均等間隔に並ぶように穴を掘り、そこへ種を植えた。

多様な参加者が共に作業しながら話し合う事ができ、楽しい交流の時間となった。ヒマワリの花が咲く頃に再訪したいという声もあり、今回の参加者同士が再会を待ちわびる様子も見られた。

ワークショップの様子

■ 第7回



■ 第8回



参加者の声

第7回

- 土を触ったり水を撒いたりするのが楽しかった。
- 耕す作業は大変だったけど、講師や地域の方にコツを教えてもらい、楽しくできた。
- ヒマワリが大きくなったら見に来たい。

第8回

- 農作業は初めてだったけど、気落ちいい汗をかくことができた。
- 様々なバックボーンをもつ人達と1つの作業を共に行えたことが嬉しかった。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (9)・(10)

日時 【第9回】令和4年07月21日(木曜日) 10:00 ~ 12:00
【第10回】令和4年07月21日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第9回】佐藤 賢一
【第10回】鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第9回】18名
【第10回】19名

内容

【第9回】

障がいを持った方々の就労継続支援を行っている「わ・は・わ美里」の利用者がグループで参加した。コスモスの種を蒔くエリアを中心とした草刈りを行った後、均等間隔に並ぶように穴を掘り、種を植え、水をやった。

【第10回】

第9回に引き続き、障がいを持った方々が参加した。コスモスの種を蒔くエリアを中心とした草刈りを行った後、均等間隔に並ぶように穴を掘り、種を植え、水をやった。

参加者からの要望により記念撮影を行うなど、終始和やかな雰囲気での活動となった。作業を進めながら互いに打ち明け合い、会話を楽しむ様子も見られた。

ワークショップの様子

■ 第9回



■ 第10回



参加者の声

第9回

- 前回のイベントで蒔いたヒマワリの芽が出てきていて、嬉しかった。
- ここ最近の雨と高温の繰り返しで、想像よりも雑草が生えていたので、作業が大変だった。

第10回

- 草刈りから種まきの工程は大変だったけど、大きな達成感を得ることができた。
- 自然の中で普段経験できない体験ができて、とても楽しかった。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (11)・(12)

日時 【第11回】令和4年08月21日(日曜日) 10:00 ~ 12:00
【第12回】令和4年08月21日(日曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第11回】佐藤 賢一
【第12回】鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第11回】14名
【第12回】14名

内容

【第11回】

作業中の休憩や、ビーガーデンに訪れた人が座れるよう、ベンチの作成を行った。
機材の準備を行い、ベンチの材料を搬入。木材の採寸、カット、固定・補強を行った上で塗装を行い、塗装が乾くのを待ってから設置した。

【第12回】

第11回に引き続き、ベンチの作成を行った。

暑さの中、汗を流しながらの活動となった。
講師の指導を受けながら、協力して作業を進めた。参加者の仲間意識が高まり、声をかけあいながら楽しそうに取り組む様子が見られた。

ワークショップの様子

■ 第11回



■ 第12回



参加者の声

第11回

- 丈夫なベンチが出来上がって嬉しかった。
- 完成したベンチに座って眺めるビーガーデンはより美しく感じた。

第12回

- 一人では難しい作業だったが、参加者と協力してうまくできたと思う。
- 家の庭にも作ってみたい。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (13)・(14)

日時 【第13回】 令和4年09月11日(日曜日) 10:00 ~ 12:00
【第14回】 令和4年09月11日(日曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第13回】 佐藤 賢一
【第14回】 鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第13回】 6名
【第14回】 8名

内容

【第13回】

オオスズメバチの活動が活発化する時期となり、ミツバチが被害を受けていたため、緊急対応としてオオスズメバチの捕殺を行った。捕獲したオオスズメバチを粘着シートに貼り付け、仲間を呼び寄せて捕殺する。

また、景観を整えるための環境整備の一環として除草を行った。

【第14回】

第13回に引き続き、除草を行った上、雑草が蔓延らないよう、予防策として防草シートを設置した。また、ラベンダー周辺の景観を整えるためにフェンスなど装飾の設置も行った。

雑草除去は根気のいる作業だが、参加者同士で会話を楽しみながら熱心に取り組んでいた。

ワークショップの様子

■ 第13回



■ 第14回



参加者の声

第13回

- ミツバチの天敵であるオオスズメバチを数多く捕獲できてよかった。
- 雑草が生えてくる間隔が短く、景観を保つことがとても難しいと感じた。

第14回

- 雑草の生命力が強く、来年以降、ミツバチに影響が出ない除草剤など検討が必要と感じた。
- 力を合わせて草取りを行ったことで、短時間で大きな面積を綺麗にできた。

遊休農地を活用した農作業体験イベント (15)・(16)

日時 【第15回】令和4年10月16日(日曜日) 10:00 ~ 12:00
【第16回】令和4年10月16日(日曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 遊休農地(巨理町吉田長瀬字平場13-11)

講師 【第15回】佐藤 賢一
【第16回】鎌田 雅行(株式会社 鎌田建業)

参加人数 【第15回】12名
【第16回】12名

内容

【第15回】

ビーガーデンの景観を整えるための除草を行った上で、整備した箇所に蜜源植物であるクローバーの種を蒔いた。また、次年度へ向けた草花の手入れを行い、今後ガーデンに植える草花の計画についても話し合った。

【第16回】

第15回に引き続き、除草とクローバーの種蒔きを行った。また、今後ガーデンに植える草花の計画についても話し合い、交流を深めた。

ヒマワリなどの花が咲き始めたことを喜びあう参加者の声も聞かれた。自分たちで整備したビーガーデンで花が咲き誇る様子を見て達成感を感じ、来年への活動意欲が高まっている様子が見られた。

ワークショップの様子

■ 第15回



■ 第16回



参加者の声

第15回

- コスモスや秋先ひまわりが咲いていて気持ちよかった。
- 雑草も最盛期を越え、景観を整えやすくなった。
- 来年、何を植えようか考えてワクワクした。

第16回

- 雑草や石を取り除くことで、ガーデン全体が綺麗になった。
- コスモスに次々とミツバチがやってくる様子が可愛かった。

商品開発ワークショップ (1)・(2)

日時 【第1回】令和4年12月14日(水曜日) 10:00 ~ 12:00
【第2回】令和4年12月14日(水曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 一般社団法人WATALIS内(亘理町字中町22番地)

講師 【第1回】齋藤 高晴(株式会社communa)
【第2回】田中 麗(株式会社communa)

参加人数 【第1回】10名
【第2回】10名

内容

【第1回】

養蜂に関心がある北欧からの留学生が参加した。
今回の講師である齋藤高晴氏が制作した、国内外のミツバチに関連するプロダクトについてのスライドを見ながら意見を交換した。
参考として提出されたのは「銀座ミツバチプロジェクト」や「小金井生はちみつ」、「秋田屋本店ハチミツdays」など。

【第2回】

第1回に引き続き、養蜂に関心がある留学生が参加した。
第1回の意見交換を踏まえて、より話し合いを深めた。
商品のバックグラウンドを詳しく伝えるため、活動をまとめた小冊子や動画へ誘導するQRコードなどを本体とセットにして販売してはどうかとの意見が出た。

なお、ミツロウについても商品化を進める予定。

ワークショップの様子

■ 第1回



■ 第2回



参加者の意見

第1回・第2回

- バックグラウンド(遊休農地の活用と多様な人々が集うコミュニティづくり)を示した方がいい。
- 使い方が示されていると買いやすい。はちみつの大きな瓶を見ても、それをどう使い切るのがパッと思い浮かばない人の方が多いと思う。
- はちみつをそのまま販売するのではなく、クッキーなどの形にするのはどうか。

商品開発意見交換会 (全6回開催)

- 日時**
- 【第1回】令和5年01月27日(金曜日) 10:00 ~ 12:00
 - 【第2回】令和5年01月27日(金曜日) 13:00 ~ 15:00
 - 【第3回】令和5年02月21日(火曜日) 10:00 ~ 12:00
 - 【第4回】令和5年02月21日(火曜日) 13:00 ~ 15:00
 - 【第5回】令和5年03月02日(木曜日) 10:00 ~ 12:00
 - 【第6回】令和5年03月02日(木曜日) 13:00 ~ 15:00

場所 一般社団法人WATALIS内(亘理町字中町22番地)

- 講師**
- 【第1回】なし
 - 【第2回】齋藤 高晴(株式会社communa)
 - 【第3回】なし
 - 【第4回】齋藤 高晴(株式会社communa)
 - 【第6回】なし
 - 【第6回】齋藤 高晴(株式会社communa)

- 参加人数**
- 【第1回】8名
 - 【第2回】8名
 - 【第3回】8名
 - 【第4回】8名
 - 【第5回】8名
 - 【第6回】8名

内容

先んじて開催した商品開発ワークショップでの話し合いで候補に上がっていた蜜蝋キャンドルの試作を行った。はちみつを瓶詰めする際のサイズなどを検討した後、事務局や講師が持ち寄った候補の中から、はちみつ・蜜蝋キャンドルなどの商品イメージに沿ったパッケージを選定した。パッケージに記載する情報については、今後も必要に応じて保健所等と相談するなど、関係各所と連携を深めつつ、更に検討を進めていくことになった。

商品開発意見交換会の様子



7 交流前後の情報発信と コミュニティの構築

交流前後の情報発信とコミュニティの構築

目的 事業趣旨の周知や、活動に関する情報の拡散を行い、コミュニティ内で双方向の情報交換が行える環境を構築することを目的に、SNSを活用し、定期的な発信を行う。
また、認証制オンラインプラットフォームの構築も行い、誰でも気軽に参加ができるコミュニティを構築し、将来的にはイベントの周知・集客・情報発信だけでなく、利用者の拠り所になることを目指す。

内容 2022年5月～10月まで、本団体のSNSアカウントを活用して、活動告知・活動報告等の情報発信を35回実施した。投稿時には、投稿文の長さに注意し、絵文字を活用して視覚的に訴えることで、最後まで読んでもらえるように文章を設計した。また、関連性があり投稿件数が多いハッシュタグを使用することで、そこからの流入を狙った。初めてプロフィールを訪れた人にも魅力的な印象を与えることを意識しつつ、全体的な設計を行った。

また、一定の条件を満たすことで誰でも気軽に参加ができ、記事投稿などの形で情報発信も行える、認証制オンラインプラットフォームの構築を行った。コメントやいいね!機能を設け、知らない人同士でも「養蜂」をテーマとしたコミュニケーションを取ることができ、心の繋がりや共通の趣味を持つ人同士での繋がりを生むことができる。加えて、対面で人と関わることに戸惑いがある人でも安心して簡単に参加できることから、ダイバーシティなコミュニティの創出を期待している。

考察 Facebookへの投稿を振り返ると、DIY作業や、花の種蒔き作業といった未来に向けた明るい活動の告知・報告へのリーチ数が高かった。
障がいを持った方々の就労継続支援を行っている「わ・は・わ美里」の利用者がグループで参加した際はエンゲージメント率が増加したが、これは家族や周囲へ情報が拡散されたことがエンゲージメント率の増加につながった可能性が高い。
また、お盆休み中に行った投稿は全体的にリーチ数が高い傾向にあった。

InstagramでもFacebookと似たような傾向が見られたが、実際に畑の畝を耕している写真等、トップに目を惹くような写真を使用した投稿のリーチ数が増加する傾向にあった。

認証制オンラインプラットフォームは予定通り完成した。
このプラットフォームが活動の認知や、参加層の拡大に繋がり、ダイバーシティなコミュニティの創出に繋がることを期待している。

実際の情報発信(一例)



Facebookでの投稿



Instagramでの投稿

オンラインコミュニティ



オンラインコミュニティの様子 (<https://honeybee.watalis.jp>)

アンケート結果・考察

ワークショップ

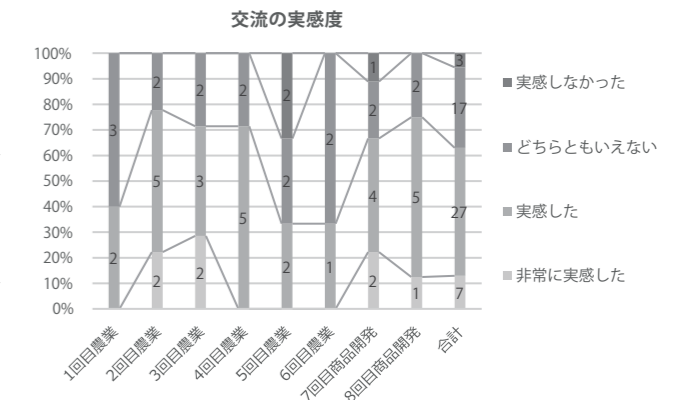
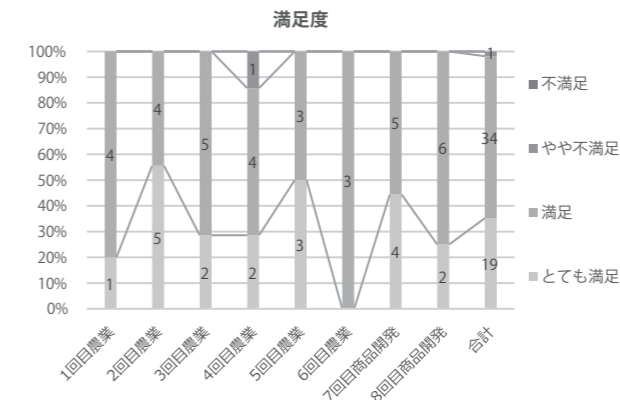
計8回のワークショップを実施し、合計80名が参加。
その内、アンケートの回答者は54名、回答率は68%となった。

	回数	参加者数	回答者数	回答率
農作業に関するワークショップ 第1回	9	9	5	56%
農作業に関するワークショップ 第2回	14	14	9	64%
農作業に関するワークショップ 第3回	12	12	7	58%
農作業に関するワークショップ 第4回	11	11	7	64%
農作業に関するワークショップ 第5回	9	9	6	67%
農作業に関するワークショップ 第6回	7	7	3	43%
商品開発ワークショップ 第1回	9	9	9	100%
商品開発ワークショップ 第2回	9	9	8	89%
合計		80	54	68%

各回の参加者割合において、男性の割合が最も多く、開催回数の内5回が女性を上回り、半分以上を占めている。一方、女性の割合については、開催回数の内3回が男性を上回ったが、全体としては、男性の割合が60%を超える結果となった。

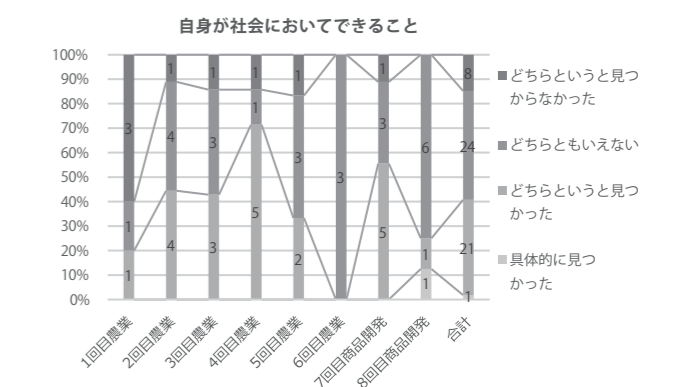
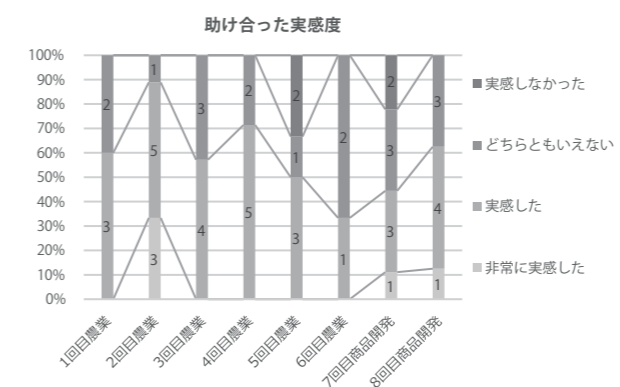
20代と30代の参加者の割合が多く、20代と30代の参加者で70%以上を占めている。

年代別に見ると、30代の参加者が最も多く、40%程度を占めており、続いて20代が20%以上を占める結果となった。



満足度について、回答した54名の参加者の内、98%の参加者は満足と回答している。満足した理由については、「勉強になった」「知らない情報を知った」「養蜂の現場を見ることができた」という声が多数であった。また、「参加者との意見交換や交流ができた」「様々な方とかわることができた」という声もあった。

交流の実感度については、各回の回答結果が分散しているが、全体としては、60%程度が実感していると回答。交流を実感できた参加者に、会話の内容について「趣味について」「困難な状況や経験について」「欠点や弱点について」「性格や能力について」の4つから選択式で集計した結果、「趣味について」が多く選択されていた。



助け合った実感度について、各回の回答結果が分散しているが、全体としては、60%程度が実感していると回答。理由をまとめると、「協力し合い、共同作業ができた」という声が多数だった。また、商品開発のワークショップにおいては、「具体的な意見を出し合った」という声が多数だった。自身が社会においてできることについて、各回の回答結果が分散しているが、全体として最も多かったのは、「どちらともいえない」という回答が45%程度を占め、見つかったのは、約40%となった。見つかったと回答した回答者の意見をまとめると、「自分ができる範囲で頑張る」「ミツバチの世話や遊休農地の活用といった自然環境の保全」「成果物をより多くの人に伝えていく」といった回答が多数であった。

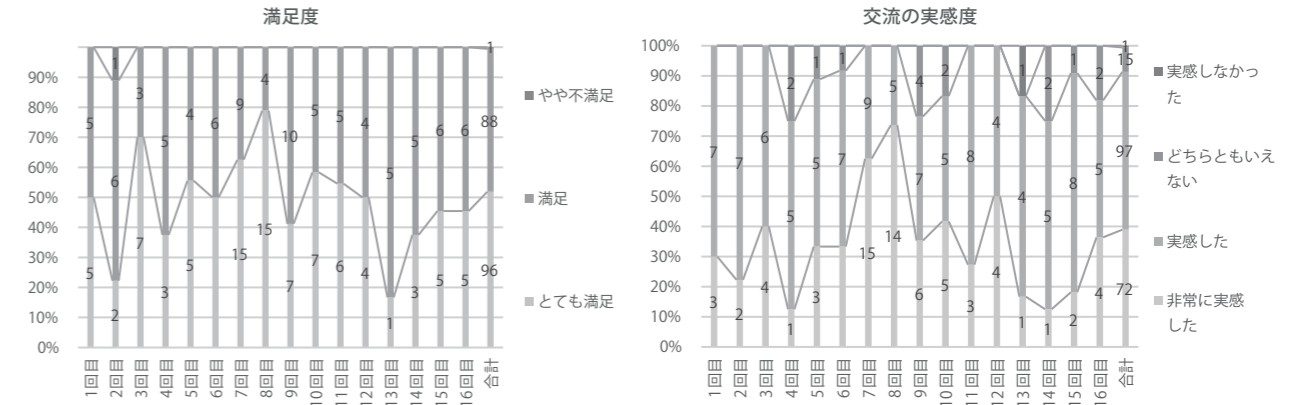
遊休農地を活用した農作業体験イベント

計16回のイベントを実施し、合計218名が参加。
その内、アンケートの回答者は185名、回答率は85%となった。

	回数	参加者数	回答者数	回答率
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第1回	11	11	10	91%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第2回	12	12	9	75%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第3回	11	11	10	91%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第4回	10	10	8	80%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第5回	10	10	9	90%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第6回	13	13	12	92%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第7回	24	24	24	100%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第8回	24	24	19	79%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第9回	18	18	17	94%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第10回	19	19	12	63%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第11回	14	14	11	79%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第12回	14	14	8	57%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第13回	6	6	6	100%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第14回	8	8	8	100%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第15回	12	12	11	92%
遊休農地を活用した農作業体験イベント 第16回	12	12	11	92%
合計		218	185	85%

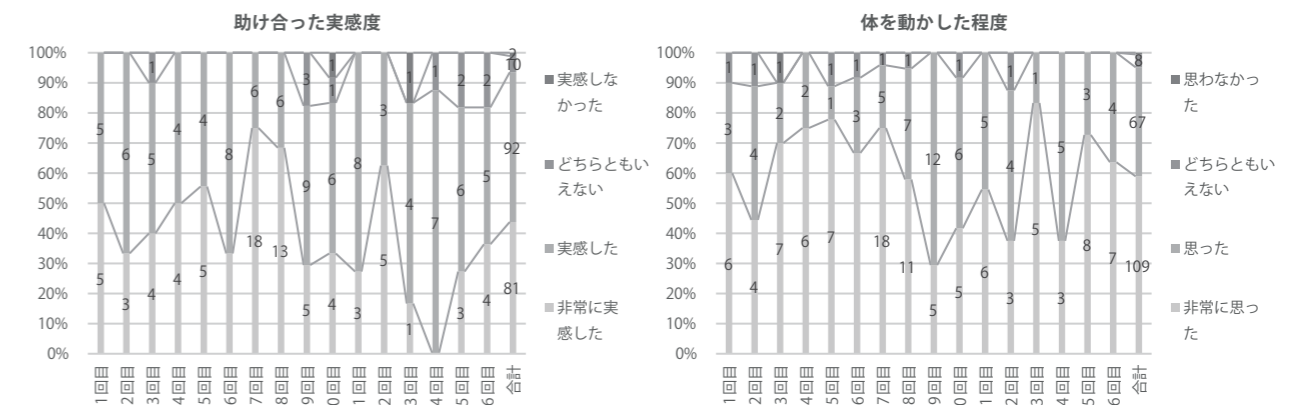
各回の参加者割合において、女性の割合が最も多く、開催回数の内8回が男性を上回り、開催回数の半分を占めた。一方、男性の割合については、開催回数の内、参加者が最も多く、女性を上回ったのは2回となっており、全体としては、女性の割合が50%を超える結果となった。

年代について、各回の回答結果は分散しているが、全体で見ると、40代の参加者が最も多く、40%程度を占めている。続いて30代が20%以上を占める結果となった。



満足度について、回答した185名の参加者の内、99%が満足していると回答。数多くの満足した理由をまとめると、主に2つの理由が挙げられる。1つ目は、「参加者同士の連携」「手作業(DIY)を楽しく体験できた」こと。各回のテーマが異なっているが、畑の雑草抜き・花畑の整備・大工体験といったテーマを楽しく体験したという声が多数寄せられた。2つ目は、「達成感」である。今回多くの参加者と連携して作業を完了させたことで大きな達成感が得られたという声が多数あった。

交流の実感度について、回答した185名の参加者の内、90%程度が実感していると回答。交流を実感した理由をまとめると、「参加者同士が協力し合い、スムーズに作業ができた」や「わからないことを教えてもらった」という声が多数であった。



助け合った実感度について、80%以上が実感したと回答し、全体においても90%以上となった。実感した理由をまとめると、「距離感を気にせず、気軽に話しかけられる環境で、一緒に作業ができた」という回答が多数。また、「わからないことを教えてくれた」や「障害者の方も参加し、協力しながら作業した」という声もあった。

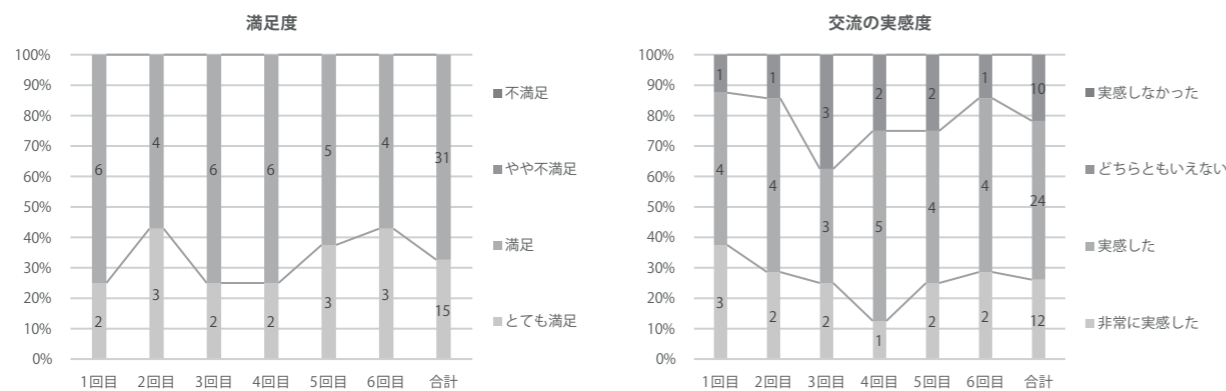
体を動かした程度については、各回80%以上が体を動かしたと回答し、全体においても90%以上となった。その内、70%は「大変だった」と回答した。

農作業体験の成果物の商品化・農作物の付加価値化

計6回の商品開発意見交換会を開催し、合計48名が参加。
その内、アンケートへの回答は46名、回答率は96%となった。

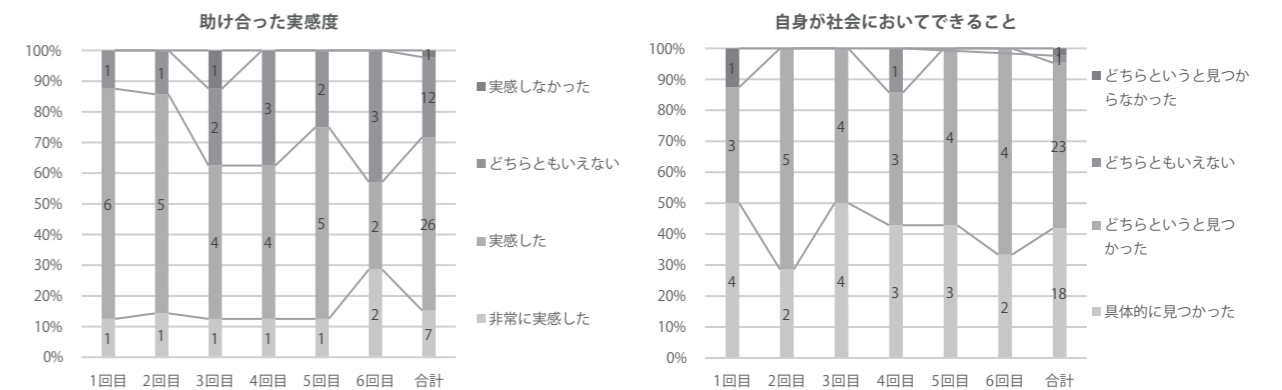
	回数	参加者数	回答者数	回答率
商品開発意見交換会 第1回		8	8	100%
商品開発意見交換会 第2回		8	7	88%
商品開発意見交換会 第3回		8	8	100%
商品開発意見交換会 第4回		8	8	100%
商品開発意見交換会 第5回		8	8	100%
商品開発意見交換会 第6回		8	7	88%
合計		48	46	96%

女性の参加割合が50%超と最も多く、全体で見ても50%を超える結果となった。
年代については、30代が48%と最も多く、全体の半数に近い割合となった。



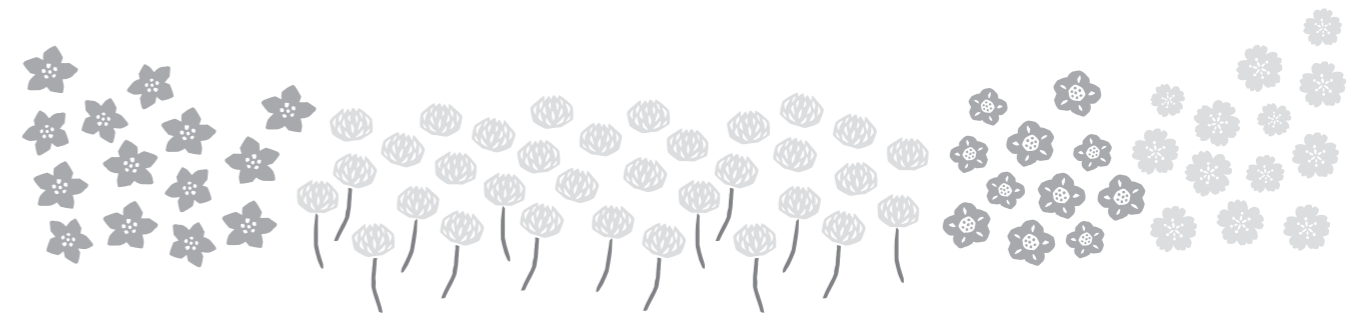
満足度について、各回の参加者は100%満足している。
主な理由は、3つとなっている。1つ目は「参加者の声を聞いた」「意見交換ができた」といった、参加者同士の意見交換を行えたことに満足したという声。2つ目は「活動成果を形にできて嬉しい」「商品づくりに関わって楽しかった」といった、商品づくりに関わったことに満足したという声。3つ目は、「パッケージについて学べた」「日本以外のハチミツの扱い方について知ることができた」といった、新たな知識を得られたことに満足したという声である。

交流の実感度について、各回の参加者の内、60%以上が実感していると回答。全体においても80%程度が交流を実感している。交流を実感できた参加者に、会話の内容について「趣味について」「困難な状況や経験について」「欠点や弱点について」「性格や能力について」の4つから選択式で集計した結果、「趣味について」が多く選択されていた。



参加者同士の助け合いにおいて、60%程度が助け合ったことを実感した。その理由として、「お互いのアイデアや発想を尊重し合いながら、話し合いを進めることができた」「それぞれがアイデアを出し合う時間があった」「各自の視点で、商品づくりのアイデアを出し合えた」といった意見があげられ、それぞれの価値観を尊重し、交流しながら物事を進めることができたことが結果に繋がったと言える。

自身が社会においてできることについては、各回において、80%以上が見つかったと回答した。具体的な内容として、「地域づくり活動に継続して参加する」と回答した人が多数となった。



賛助会員募集パンフレット

入会方法

- 申込書に必要事項をご記入の上、メールまたは郵送にてお送りください。申込書はホームページからダウンロードできます。
- ご入会の受付を確認後、会費納入をお願いいたします。

事務局・お問い合わせ窓口

事務局 一般社団法人 WATALIS
住所 〒989-2251 宮城県刈田郡栗原町字中町22
電話番号 0223-35-7341
E-mail info@watalis.jp
HP <http://watalis.jp/>

QRコード: ホームページ, Facebook, Instagram, オンラインコミュニティ

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「遊休農地の活用によるダイバーシティな地域共生コミュニティ造成事業」

WATALIS ミツバチプロジェクト 賛助会員募集

WATALISは、震災後に地域の女性たちで立ち上げた団体です。東日本大震災の被災地である宮城県栗原町で、震災で閉鎖した地域コミュニティを再構築し「人と学びの環を創る」ことを目的として活動しています。私たちは、多様な地域住民と共に遊休農地の活用事業にも専心しました。人と自然が調和共生する「互恵らしい地域復興」により、持続可能な地域社会づくりを目指しています。

地域の課題

少子高齢化 就業人口の減少 担い手不足 → 未利用地や 遊休農地の増加 → 農地の荒廃 耕作放棄地の増加

このままでは、住居が心の拠り所を失い、更なる地域活力の低下に繋がってしまう...

WATALISが目指すこと

交流できる機会とコミュニティを創出

- 農地の活用を始めるきっかけをつくるため、多様な人たちが集い、農作業や園芸、直売物の販売などを通じて交流できる場を創ります。
- 活動を通して「互恵らしい地域復興」を目指すと同時に、周辺有地の活用などある豊かな自然と人が調和共生できる未来を創ります。
- 参加者自身が被災地の農地再生という地域課題の解決に貢献できる機会を提供し、精神的充足感の獲得を支援します。

賛助会費について

私たちの活動を応援して下さる賛助会員を募集しております。法人・個人など、金方面からご支援・ご協力をお願い申し上げます。

法人 50,000円/1口
個人 10,000円/1口

期間: 会費支払日～2023年3月31日 / 口数: 1口以上何口でも
※10月31日までに2口以上の場合は、その年度に限り口数を増やすことができます。
※原則として、一度お申し込みいただいた会費については返金いたしません。
※お申し込みいただいた会費でも、必要に応じてご入金いただく場合があります。

会員特典

- ホームページや広報誌で、ご芳名を紹介させていただきます。
〔公表を希望されない場合を除く〕
- 3口以上の法人様は、ホームページにバナーを掲載させていただきます。
- 有料の講座やイベントに、会員割引価格でご参加いただけます。
- 年1回、お礼の品をお送りします。
(ハチミツ、農作物を加工した菓子など)

イベント参加者募集チラシ

みんなで作る ピーガーデン

遊休農地を活用した 農作業体験イベント 参加者募集!!

開催日程

5/15 (sun)	5/26 (thu)	6/5 (sun)	6/16 (thu)
① 10:00～12:00	③ 10:00～12:00	⑤ 10:00～12:00	⑦ 10:00～12:00
② 13:00～15:00	④ 13:00～15:00	⑥ 13:00～15:00	⑧ 13:00～15:00
7/21 (thu)	8/21 (sun)	9/11 (sun)	10/16 (sun)
⑨ 10:00～12:00	⑪ 10:00～12:00	⑬ 10:00～12:00	⑮ 10:00～12:00
⑩ 13:00～15:00	⑫ 13:00～15:00	⑭ 13:00～15:00	⑯ 13:00～15:00

参加費 無料(定員20名) **集合場所 中町カフェー(巨野市中町22)**

※イベント会場では、採取したハチミツが試食できます。 ※開始の10分前を目安にお集まりください。
※イベント会場までは、各自、自家用車での移動となります。

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
Supported by Social Welfare Assistance Project (CSOP) (Shelter and Medical Service Agency)
<https://www.wam.go.jp/>

WATALIS
遊休農地の活用によるダイバーシティな
地域共生コミュニティ造成事業

各回のイベント詳細は裏面へ

0223-35-7341 受付時間 10:00～16:00
(定休日: 土曜・日曜・祝日、臨時休業あり)

と実施内容

3・4 26 (thu) **花壇の整備とラベンダーの植え付け**
蜜源植物である「ラベンダー」を植え付けるため、草刈りやうね起こしをして花壇を整備します。開花の目安は、7月下旬頃となります。

8 (thu) **花壇の整備とひまわりの種まき**
蜜源植物である「ひまわり」の種を蒔くため、草刈りやうね起こしをして花壇を整備します。開花の目安は、8月下旬頃となります。

花と蜂を楽しむためのベンチづくり
作業中の休憩や、蜜を運ぶ蜜蜂を観察するためのベンチを作ってピーガーデンに設置します。

来年に向けた計画とコスモスの種採取
コスモスの種を採取しながら、来年度の活動に向け、植える蜜源植物の選定や装飾の検討を行います。

定めています。のらないようご参加ください。更なる場合があります。があります。に直接ご連絡します。